

1	公開授業実施日時	2018年12月4日（火）9:45～10:30
2	場所	京都教育大学附属桃山小学校 5年2組教室
3	対象	5年2組 36名
4	授業者	井上 美鈴
5	島名	グローバル・エシックス
6	単元名	伝記を読んで、自分の生き方について考えよう
7	関連する教科・領域	国語科
8	単元の目標・ねらい	伝記を読んで、自分の生き方について考え、よりよく生きるとはどういうことか伝え合う。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	伝記の人物像から自分自身がどう生きるかということやリーダー像を考える。また、その内容から人類共通の課題である地震対策について考えるきっかけにしたい。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	伝記を読み、他者との意見の交流を通して自分の生き方について考え、尊敬する対象として人物をイメージできたか。また、防災について考えるきっかけとできたか。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	伝記を読み、他者との意見の交流を通して、自分の生き方について考え、その考えを広げたり深めたりすることができたか。
12	単元計画	全7時間 <<別紙指導案を参照>>
13	本時の目標	<<別紙指導案を参照>>
14	本時の展開	<<別紙指導案を参照>>
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	伝記の登場人物から自分が学ぶことを見つけ、自分の生き方を考える比較対象としてとても意味のある学習である。また、今回は直接的ではないが地震に対する意識を高めるきっかけとなる。
16	授業者から一言	子どもたちの問いを大切にした結果、伝記の登場人物を中心とした学習展開となった。児童の興味・関心に即すと多様な展開が考えられる教材である。

研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

高学年におけるめざす子ども像

自他国の文化の違いを理解し、その多様性を認め合いながら、さまざまな人とすすんで関わりあう

1. 教科名 国語
2. 授業テーマ 「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」
3. プログラム名 「百年後のふるさとを守る」
4. プログラムのねらい

伝記を読んで、自分の生き方について考え、よりよく生きるとはどういうことか伝え合う。

5. 教材とグローバル人材育成の接点

本単元は、「浜口儀兵衛」という人物の人生を描いた伝記「百年後のふるさとを守る」を読み、伝記の特色をつかんだ上で、自分の考えたことをまとめるという構成になっている。この伝記に登場する人物は、浜口儀兵衛（文政3年6月15日（1820年7月24日） - 1885年（明治18年）4月21日）は、江戸時代末期（幕末）から明治初期にかけての当主である。名は成則、号は梧陵（ごりょう）である。嘉永7年（1854年）の安政南海地震に際して広村住民の津波からの避難誘導にあたり（これをもととして、のちに「稲むらの火」の物語が記された）、地震後は広村の堤防建設に尽力した。また、人材育成や医学の発展にも支援を行い、政治家としても活動した人物である。

この伝記を読むことを通して防災や自助と共助の意識について考える機会としたい。また、小学校5年生という本学級の児童にとって、自分自身の生き方といっても実感がわかないかもしれないが、身近なところから自分自身が未来に向けて何ができるのかを考えるきっかけとしたい。

この伝記は「稲むらの火」として1937年から約10年間国定教科書に掲載されていた。現在では、道徳科の教科書にも掲載されている。それほど、浜口儀兵衛の生き方は学ぶべきことが多いのである。

筆者である河田恵昭は、防災学者である。筆者が書いた本の中で「近い将来確実に起こると予想されている、東海・東南海・南海地震津波や三陸津波の来襲に際して万を超える犠牲者が発生しかねない。」と記し、その三か月後の2011年3月11日に東日本大震災が起こった。その大部分が津波のために命を失った。筆者の考えは、大津波に対しては避難することがもっとも大切である。しかし、この大津波を防波堤などで小さくなるように制御しないと、避難によって助かることが難しいのである。それを防ぐには政府と自治体自らが、浜口儀兵衛が行った地震への対策の現代版を行うことが、防災・減災対策になると筆者は学習指導書のあとがきで述べられている。今後、南海トラフ地震が30年以内に起こる確率が80%と言われている。近畿地方に住む我々にとっては、決して他人ごとではない。防災や自助・共助の意識をどのように今の子どもたちと共有していくか、そのきっかけがこの伝記となるようにしたい。

本時は全7時間の7時間目にあたる。前時ではグループで深めたい内容について、プロジェク

トチームをつくり、調べたり、考えを深めたりし、その内容を発表した。

「グループ別深めたい内容」

- ①村を救った浜口儀兵衛の行動（災害時と災害後）
- ②浜口儀兵衛の家族
- ③浜口儀兵衛の仕事について
- ④浜口さんの人柄
- ⑤広村堤防の昔
- ⑥広村堤防は今の堤防の技術の原点になっているのか。
- ⑦地震や津波の被害
- ⑧地震が起りやすい場所、防災、強さなど
- ⑨昔と今の自身の対策

大きく分けて、「浜口儀兵衛の人柄や行動について興味や関心を持つグループ」と「地震や防災について興味や関心を持つグループ」に分かれた。自分自身は地震や防災に興味がなくとも、他のグループの発表を聞いて、大切さや価値に気づいた子もいる。

本時では、前時のふり返りの中で浜口儀兵衛の人柄について考えたいと思っている子が多かったので、「浜口儀兵衛の生き方と自分の生き方を比べる」というテーマについて全体で議論していく。このことで、本単元の活動目標である「自分の生き方について考える」ことを行っていきたい。小学校5年生の子どもにとって生き方と言われても実感がないかもしれない。子どもたちの中には、浜口儀兵衛のように強い意志を持つことが難しいと考えている子もいる。浜口儀兵衛の生き方が素晴らしく唯一の価値観というわけではなく、そうではない考え方もあるのだということを知ることにより、この授業の意味があるのだと考える。どのような生き方をしていきたいかという考えを交流しながら、今よりも前向きに、そしてよりよく生きていきたいと百年後の未来に思いをはせられるようにしたい。

6. 指導計画（全7時間）

第一次 「百年後のふるさとを守る」を読み、自分の生き方について考える。

第1時・2時 「百年後のふるさとを守る」を読み、伝記の特色についてまとめ、考えたことを文章にまとめる。

第3時 考えた内容について全体で交流し、今後深めたいテーマを出し合う。

第二次 自分たちが調べたい内容について、プロジェクトチームを組み内容を深める。

第4・5時 「百年後のふるさとを守る」から考えた疑問をグループで調べたり、話し合ったりして深め、模造紙にまとめる。

第6時 プロジェクトチームでまとめた内容についてグループ発表を行う。

第7時 グループ交流した内容をもとに、全体でこの伝記から学んだことを深める。（本時）

7. 本時について

- ・日時 平成30年12月4日（火曜日） 第2校時（9：45～10：30）
- ・学年・組 第5学年2組 36名
- ・場所 第5学年2組教室
- ・本時の目標
- ・伝記を元に自分たちの生き方と比べて、これからの自分自身の生き方について考え、交流する。
- ・本時の展開

学習の内容と活動	指導者上の留意点
<p>1. 伝記を元に、「浜口儀兵衛」の生き方と自分自身を比べて考えたことを発表する。</p> <p>・浜口儀兵衛の人柄→そのことについての自分の考え→自分の生き方の比較という形で進めていく</p> <p>「浜口儀兵衛のように、決断ができることを尊敬します。自分だったら自分のことしか考えられないからです。」</p> <p>「自分の財産を使ってまでしたことは、子孫のためになったけれど、家族の人はどうだったのか気になって、家族について調べました。」</p> <p>2. これまでグループで学習をしたことを元にして、どのように過ごしていきたいか（生きていきたい）と思うようになったかを発表する。</p> <p>「強い意志を持つことは、何かを迷わずにできることだと思うので、少しでもいいと思ったことは進んでしていきたいと思いました。」</p> <p>3. 今回の学習を通して学んだことをふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 浜口儀兵衛の生き方について自分とは異なると感じている子の意見を取り上げることで、多様な意見を交流していくことを伝える。 ● お互いのワークシートをタブレットで共有し、見合うことで同じグループでない子同士が意見を読み合うことができる。 ● これまでの学習と関連し、地震や防災についての意見や考えが出てくることが予想されるが、それぞれがこれまで学習したことと関連させて考えていけるようにする。 ● ワークシートに記入し、学習ブックとしてまとめていくことで、思考の変容を残していくことができる。

・評価

他者との意見の交流を通して、自分の生き方について考え、その考えを広げたり深めたりすることができたか。